

## 秋山憲治先生退職記念号に寄せて

経済学部長 戸田 龍介

秋山憲治先生は、2018年3月31日をもって神奈川大学を定年退職され、同年4月1日付で本学名誉教授とされました。長年のご貢献に対する深謝と惜別の思いを込めて、本論文集を捧げます。

先生は横浜国立大学を卒業後、横浜市立大学大学院経済学研究科に進学され、相原光先生のもとで国際経済学、貿易論を専攻されました。先生が研究を本格化された1970・80年代において、国際経済におけるもっとも重要な問題の一つは日米通商摩擦でした。先生はこの問題にいち早く注目され、アメリカ留学を機に研究を深化させ、その成果を1990年に刊行された『アメリカ通商政策と貿易摩擦』（同文館出版）を皮切りに、『技術貿易とハイテク摩擦』（同文館出版、1991年）、『日米通商摩擦の研究』（同文館出版、1994年）としてまとめ矢継ぎ早に発表されました。これらは日米通商摩擦に関する初めての本格的・体系的な研究で、洛陽の紙価を高からしめました。

先生が17年間の愛知大学での勤務を経て本学に着任されたのは1997年です。爾来21年間にわたる先生の多方面でのご活躍には目を見張るものがあります。日米通商摩擦の研究で高い評価を確立された先生は、時代の流れを的確に読み取り、研究の焦点をアジア、中国、米中関係へとシフトさせ、『米国・中国・日本の国際貿易関係』（白桃書房、2009年）、『アジア社会と水』（文眞堂、2018年）などの著書を刊行されました。このように先生は常に、時代の提起している問題をいかに捉えるか、という姿勢で研究されてきました。それは本論文集に掲載されている巻頭論文にも示されています。また先生は、講義、ゼミナールを通じて学部教育に熱心に取り組むとともに、大学院教育にも尽力されてきました。大学院では数多くの中国の留学生を引き受けて教育し社会に送り出すことで、日中の交流に多大な貢献をされたことは忘れられません。

先生は研究、教育に加え大学行政面でも多大な貢献をされてきました。経済学研究科委員長、経済学部長、評議員などの要職に就かれ、本学および経済学部の発展に寄与されました。

さらに先生について特筆すべきことは、2013年にアジア研究センターを立ち上げ、2018年までの5年間、所長としてその運営の先頭に立ってこられたことです。同センターは年報や研究叢書を刊行し、定期的にシンポジウムを開催して、その研究水準の高さを示しています。こうした組織を一からつくり上げ運営された先生のリーダーシップには感服するほかありません。

先生は「何でもこの眼で見てやろう」という精神で、アメリカ、西欧、中東欧、アジア、中東などの多くの国々を訪れられたと伺っています。こうした好奇心が時代の提起している問題を捉えることにつながったのではないかと拝察いたします。これからも旺盛な好奇心を持ち続け、お元気でご活躍されることをお祈り申し上げます。